

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東北大学	整 理 番 号	1 9 0 1
プログラム名 称	変動地球共生学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中村 美千彦
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学は大学院改革を全学の最重要案件の一つと捉えており、大学のマネジメントを中心として強力に推進している。 ・本卓越大学院プログラムは、大学が重要な領域として世界トップレベル研究拠点の形成を目指している4つの分野の一つとなる「防災科学」のプログラムであり、卓越した大学院プログラムとして確立させている。 ・カリキュラムや経済支援・研究費支援の見直し、参加企業の拡大など、中間評価の留意事項や現地視察報告書の意見に対して、丁寧に様々な改善を図る努力がなされている。 ・産学連携収入は計画を大きく上回っており、産学官連携拠点との戦略的連携による外部資金の導入も順調に進んでいる。 ・プログラム博士課程学生の30%ほどが学振特別研究員に選ばれており、国際学術誌掲載数、国際学会発表数や研究成果受賞数も期待以上であり、優秀な学生が獲得されている。加えて、学部生+保護者に向けた進学説明会を新たに実施するなど、M1から参加する学生を確保するための取り組みがなされている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総長に指名された理事または副学長が機構長を務める「高等大学院機構」が設置されており、本卓越大学院プログラムを含む3件の卓越大学院プログラムが入る「産学共創大学院プログラム部門」など、複数の大学院プログラム部門を総合的に運営し、学位プログラムの成果を大学院全体に波及させる体制が取られている。高等大学院機構では学位プログラムの学生だけではなく、学位プログラムに属さない他の多くの大学院学生に対しても経済支援及び各種研修プログラムを実施しており、学位プログラムの成果を大学院全体に波及させている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムが目指す「スノークリスタル型人才」のコアとなる専門力は、プログラム学生が個々に取り組む分野での専門力であり、共通の学問を意味するものではないことが明らかになった。コアがバラバラであるとプログラムの独自性を直感的に捉えにくくなるため、変動地球共生学卓越大学院プログラムの特徴を適切に表現するキーワードや説明を工夫していただきたい。 ・世界リスクマネジメント学が表層的な概論に留まっているおそれがあること、I-Labo研修や自主企画研修が学生の所属研究科や研究テーマによっては研究の展開や卓越化への有用性が低い場合があることなど、プログラムの中核となるカリキュラムの内実をより改善することに取り組んでいただきたい。 ・コロナ禍の影響で海外研修や海外大学等への派遣者数は限られてきたが、海外経験を望む学生のために、コロナ禍が明けた今後の予定を告知することが望ましい。 ・メンター制度について、必要なケースでは、企業などからのメンターへの参画を含 			

め学生とメンターのマッチングが円滑に図れるようにすること、メンタリングの頻度を年2回と定めず柔軟化することなどの改善が望まれる。

- 学生定例会議、ランチミーティングや英語研修など、学生同士が交流を深め切磋琢磨するために大学が用意した機会への学生の参加が少ないようである。折角の貴重な学生間交流の機会ゆえ、積極的に活用するよう学生に促す対策を講じることが望まれる。
- 国内の他大学における防災科学関連分野との連携や交流の強化が期待される。